

《名木田正昭》

市政を取り巻く政治環境の変化について

問 国県共に政治環境が大きく変化しているが、アベノミクスの効果と共に、市政推進にとって難問解決の絶好のチャンスと思うがどうか。(以下市長)

答 本市にとって大変やりやすくなった。また、弱者対策も十分考えながら難問解決を目指したい。(以下市長)

《根馬和子》

健康政策について

問 市民のメタボの実態と予防はどのようになっていくか。

答 2994名の国保受診者



生活習慣改善啓発パンフレット

問 川西地域の活性化と新架橋の重要性については、今後のウイングバレーの実働がポイントになるが現状はどうか。

答 三菱自動車益子社長との約束で今年4月より増産体制を敷き活発にするので心配ないとのこと。その他にも企業誘致のために国に強く農振規制解除を働きかけている。

新架橋の有効活用について

ゆるキャラ(チュッピー)の活用について

問 現在、地域まちおこしの手段として全国的にゆるキャラブームであり、全国大会なども行われていて大変な経済波及効果も上がっているが、本市としてはどう取り組むのか。



総社のマスコット(左)チュッピー(右)きびたろう

答 日本での患者は約4700万人と推計され、市民に比率すると2万5千人と推計でき、大変な事態だ。

問 変形関節症、骨粗しょう症、ヘルニア等を患っている人は、将来、要介護になるリスクが高いといわれる。他市のガイドやパンフレットを参考に啓発をしようか。

問 実態把握と子どものケア、いじめ撲滅はどうしているか。

答 「困ったアンケート」で把握し、保護者の協力の下、メンタルヘルスをし、子どもへの教育をしている。(教育長)

問 教師の雑務負担を軽減し、子どもと接する時間を確保し、質の高い教育をすべきでは。

答 学力向上を目指して対応している。(教育長)

問 予備軍を入れて、市には一万人に近い対象者がいる。将来の危険性や医療費の削減のためにきめ細かく啓発をすべきではないか。

問 新国民病の運動器症候群(ロコモティブシンドローム)の実態はどうか。

答 しつかりとしていく。

《萱原潤》

自治体の危機管理について

問 自治体に対処すべき危機の種類をどのように認識しているか。

答 大別すると「自然発生的な危機」「人為的な危機」に分類されると思う。(市長)

問 自治体の危機管理は、対象にする危機を広義に捉えて、総合的な観点から論じるべきか。

問 危機管理においてリー

問 今後、危機管理のスペシャリストの育成が必要と考



防災訓練での災害対策本部

と考えるがどうか。

答 平時時は訓練で、いざというときは決断。平時から(危機管理)体制を整えることも大事と思う。(市長)

問 危機への対応の基本について、どう認識しているか。

問 人を思いやる心、子どもたちの立場を忘れずに、勇気と責任を持って決断することが大事だと考える。(教育長)

問 「やるべきこと」は速やかに、状況を見極め、判断をし、対処する。(市長)

問 情報を隠さないこと、市民の視点に立った解決策に務めることが大切と考えるがどうか。

答 スペシャリストの育成は

《丹下茂》

土木行政について

問 国道180号バイパス「総社―小寺」の進捗状況と、周辺対策並びに開通後の安全対策について、どのように考えているか。

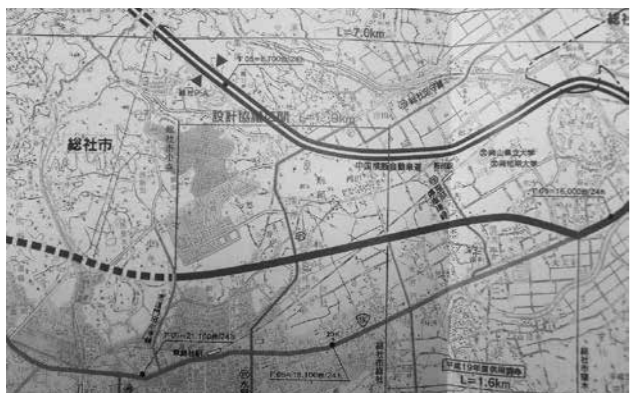
答 国道180号バイパスについては一時凍結という話もあったが、平成25年度からわずかではあるが予算も付いている。門田・小寺線から東へ

障がい者雇用について

問 障がい者の雇用の促進等に関する法律改正や障がい者優先調達推進法の施行など、障がい者雇用を促進する国の

問 直接的には影響がないと思うが、市の条例に示していることとあまり違いはないと思う。(市長)

この他にも「分煙対策について」「選挙の投票率の向上に向けての対策」などについて質問・答弁がなされた。



国道180号バイパスの今後の予定